

最大の理解者だった夫は2年前に他界。「ワーク・ハード」でなく『ワーク・スマート』でやらなきゃだめだ、と言われていました。つながりや広がりやを大切にしたい」と木下さん



「国際ゾンタ26地区」ガバナー

木下 彰子さん(71) 小倉北

世界66万国・地域に約3万人の会員を持ち、女性の地位向上と社会福祉に取り組む慈善活動団体・ゾンタクラブ。米国発祥で、ゾンタとは先住民、スー族の言葉で「正直」「信頼」を意味するとい

う。その日本支部「国際ゾンタ26地区」の代表にあたるガバナーに7月、就任した。任期は2年。九州からのガバナーは初めてで、国内49クラブを率いる。「女性が能力を十分に発揮できる社会を

子どもたちが幸せになれるような活動をしていきたい」と意気込む。若松区出身。牧師が開く教室で英語力を身につけ、北九州青年会議所で英語を教えた。サンフランシスコに留学し、帰国後は通訳として活動。海外の外交官約30人が視察に来る際、市の要請を受けたのがきっかけで行政と関わるようになり、当

女性への地位向上へ

時の谷伍平、末吉興一両市長付きとなった。

個人で通訳や翻訳をする人たちはいたが、事業とする企業はまだ市内になかったという。需要に後押しされ1989年、米国でビジネスコンサルタントをしていた夫と英語教育、通訳、翻訳、コ



ンサルディングを柱とした会社「アウルズ」を設立。「都市の国際化が叫ばれていた頃です。海外向けの市のパンフレットを『鉄冷え』という暗いイメージではなく、ポジティブな印象に作りかえる仕事もしました」と振り返る。

女性経営者の視点とバ

「人間死ぬまで発展途上人」

イリンガルの強みを買われ、91年の北九州ゾンタ設立時のメンバーに名を連ねた。初代の市婦人対策室長、市立男女共同参画センター「ムーブ」所長を務めた三隅佳子さんから女性学を教え込まれ、26地区の国連委員長、エリアディレクター、副ガバナーという要職を務めるうち、活動にのめり込んだ。

「これからはAIの時代だけど、私たちが伝えていかなければならないのは人間の魂だと思っております」。18歳未満での婚姻(児童婚)の根絶。男女同一労働同一賃金の法制化推進。柱となる六つの目標を定め、20年の国際ゾンタ100周年に向け、より多くの人に活動を知ってもらえるよう知恵を絞る。モットーは「人間死ぬまで発展途上人」だ。【長谷川容子】